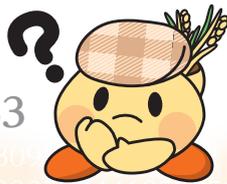


数字で振り返る岩見沢

262.0 1,112 94,802
 5,292 ? 99.2
 38,243 5,345



私たちの日常生活は、気象など身近な自然現象のほか、通学や通勤時の交通、食料品などの買い物、ごみ処理、病院や学校、住まいの快適さなど、さまざまな社会現象と関わっています。こうしたさまざまな現象を正しく理解するため、岩見沢に関する統計数字を過去に遡って紹介していきます。

第6回 車社会と公共交通

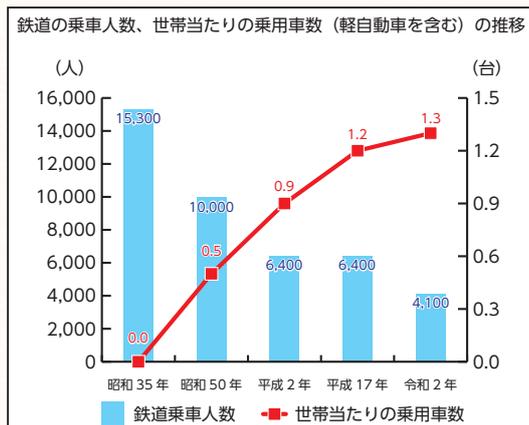
問合先 庶務課市史資料室（北村支所内） ☎ 56-2001

今月の数字 約 1.3 台

明治15年に手宮（小樽）・幌内（三笠）間に開通した鉄道は、当初、炭鉱と一体で経営され、石炭と併せて物資の供給や開拓移民の輸送に当たりました。明治25年に室蘭線、大正3年に万字線が開通し、岩見沢は石炭輸送を担う交通の要衝として発展しました。また、大正14年に北村・岩見沢間でバスの運行が始まり、昭和23年に国鉄バスが岩見沢・月形間、昭和24年には中央バスが市内線や栗沢方面を含む郊外線を開始し、昭和34年には国鉄バスが北村・札幌間を2時間で結ぶ直通便を運行するなど、石狩原野開拓地の交通を担いました。



昭和35年の1日当たりの鉄道乗車人数は、市内各駅合わせて約1万5千人、バスは2万人を超え、いずれも現在を大きく上回っていました。鉄道とバスは、昭和40年代からの人口増加に伴う通勤者や通学者を支えましたが、その一方で郊外団地の開発や高速自動車道路の開通など道路網の整備が進み、乗用車が増えていきました。



軽自動車を含む乗用車の世帯当たりの保有台数は、平成10年代に世帯数を上回り、令和2年には世帯当たり約1.3台を数え、乗用車は市民の便利な移動手段として普及しています。

少子高齢化が進む近年、世帯当たりの乗用車数は横ばいになっています。市は、市民の意見や利用実態を基に、中心市街地へのアクセス性の向上や高齢者など交通弱者の「生活の足」を確保するため、バス路線網の再編と併せてコミュニティバスやデマンド型乗合タクシーの運行にも取り組んでいます。利用者や担い手の確保など、誰もが利用できる鉄道やバスなどの公共交通の持続可能なあり方を考えていく必要があります。

人の動き (令和6年7月31日現在)

●住民基本台帳 人口 男 34,864 人(前月比 - 29)
 女 39,808 人(前月比 - 17)
 総数 74,672 人(前月比 - 46)
 世帯数 40,628 世帯(前月比 + 3)

岩見沢市役所

☎ 068-8686 北海道岩見沢市鳩が丘1丁目1番1号
 ☎ 0126-23-4111 (代表) FAX 0126-23-9977
 ホームページ
<https://www.city.iwamizawa.hokkaido.jp>



発行・編集 岩見沢市総務部秘書課広報室

広報クイズ

問題

認知症が疑われる症状が発生した時から、状態などに応じてどのような介護サービスなどを利用できるかを示した認知症□□□□を作成しています。□に当てはまる言葉をお答えください。

プレゼント

正解者の中から抽選で10人に図書カード500円分をプレゼント

締め切り 9月20日(金) (必着)

応募方法

はがき(送付先左記)、市ホームページのフォーム、ファックス(0126-23-7731)、Eメール(pr@city.iwamizawa.lg.jp)で、●クイズの答え●住所●氏名●年齢●電話番号●広報紙に関するご意見・ご要望を必ず記入し、総務部秘書課広報室へ。当選者の発表は、発送をもって代えさせていただきます。8月号の正解は76でした。

